

富山市まちなか総合ケアセンター視察レポート

2023.10.25

はじめの一步会 宮代翔太

【概要】

A 設立年: 平成 29 年 (2017 年)

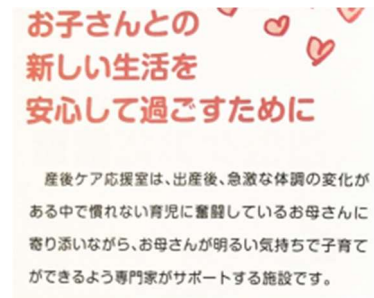
年間予算: 3.8 億円 (市の持ち出し 1.7 億円)

施設費用: 約 2 億円 (小学校跡地利用)

目的: 少子高齢化対策、地域活性化 (小学校 7 校→2 校)

対象: 赤ちゃん、高齢者、障害者

形態: 官民連携施設 (貸付期間 30 年)



【産後ケア応援室】

特徴: 産後うつ予防を目的とした市直営施設 (全国初)

利用条件: 生後 4 か月まで

部屋数: 母子同室 5 部屋

利用率: 年間 6~7 割 (9~11 月は最大 10 割)

利用期間: 最大 6 泊 7 日 (8 割が 1 泊利用)

主な利用層: 30 代

影響: 施設利用のため富山市や周辺市への移住者も

出生数: 富山市は年間 3,000 人

課題: 助産師依存による自立不足、後の不安解消の必要性あり

デイケア				
時間	食事等	利用者負担額	基本料金	利用限度
9:30~19:00	2食(昼・夕)、間食	4,900円	8,100円	週毎に 2日まで
9:30~13:00	1食(昼)、間食	1,800円	3,000円	
9:30~15:30	1食(昼)、間食	3,100円	5,100円	
13:00~19:00	1食(夕)、間食	3,100円	5,100円	

宿泊				
時間	食事等	利用者負担額	基本料金	利用限度
9:30~ 13:00~ 19:00~(要相談)	1日(24時間)の場合 3食、間食	1日(24時間) 7,200円	1日(24時間) 12,000円	1回あたり 連続 6泊まで

※デイケアとの組み合わせも可能です。

【設立背景】

富山市まちなか総合ケアセンターの設立にあたっては、実際に産後の方々を対象にアンケート調査を行い、どのような施設が望まれているかを把握したとのこと。このアンケート結果を基に、利用者のニーズに応える形で施設を設計。このような利用者中心のアプローチは、施設の運営においても重要な指針となっており、利用者の声に耳を傾けながらサービスを提供していると感じる。

この利用者中心のアプローチは、施設の成功に大きく寄与していると考えられる。また、このアプローチは他の施設やサービスにおいても参考になる点であり、利用者のニーズに応える施設設計のモデルケースとして広く紹介されるべきと考える。

宿泊(1泊2日)を利用したときの過ごし方

1日目 13:00に入所したとき

13:00 受付・ケアプラン作成



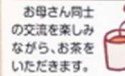
助産師がお母さんとお子さんの心身の状態をお聞きしながら、産後ケア応援室でのケアプランを個別に作成します。

13:30~16:00 ケアの提供



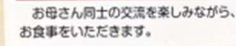
助産師がケアプランに沿ってケアを提供します。

15:00 ママカフェ



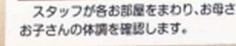
お母さん同士の交流を楽しみながら、お茶をいただきます。

18:00 夕食



お母さん同士の交流を楽しみながら、お食事をいただきます。

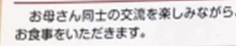
20:00 消灯



スタッフが各お部屋をまわり、お母さんやお子さんの体調を確認します。

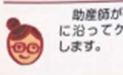
2日目

8:30 朝食



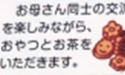
お母さん同士の交流を楽しみながら、お食事をいただきます。

10:00~12:00 ケアの提供



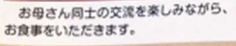
助産師がケアプランに沿ってケアを提供します。

10:30 ママカフェ



お母さん同士の交流を楽しみながら、おやつとお茶をいただきます。

12:00 昼食



お母さん同士の交流を楽しみながら、お食事をいただきます。

13:00 帰宅

お帰りの際、現金や子育て応援券で料金をお支払いいただけます。

客室(5室)

産後ケア応援室に設けた5室のお部屋は、雰囲気は少しずつ変えてあり何度ご利用いただいても楽しめるようなデザインになっています。



乳児保育室

お母さんがゆっくり休みたいときや、食事、入浴をしているときなどに、スタッフがお子さんをお預かりします。



相談室(2室)

お母さんのお話をお聞きしながら母体ケアを行います。



ダイニングルーム・ダイニンググループ

お母さんに食事をゆっくり食べていただいたり、他のお母さん方と交流ができるお部屋です。また、教室では、お母さんとお子さんのふれあい遊びなどを行っています。



お茶やコーヒーなどは、ご自由にお飲みいただけます。

【病児保育】

- ・ 受入人数：最大 10 名
- ・ 平均利用数：日平均 8~9 名
- ・ スタッフ：保育士 5 名、看護師 4 名、病児専門士 2 名（シフト制）
- ・ タイプ：病児・病後児型、お迎え型（全国初）
- ・ お迎え利用：年間約 10 名

【感想】

富山市まちなか総合ケアセンターは、少子高齢化と地域活性化に対応するための効果的な取り組みを行っていると感じる。特に産後ケア応援室は、産後うつ予防という重要な課題に対処しており、全国的にも注目される施設であり、今の日本の状況においては絶対に必要な施設だと考える。病児保育においても、お迎え型のサービスを導入するなど、利用者のニーズに応える工夫が見られる。この病児保育施設ができた後に市内の病児保育が 5→9 に増えたことも、必要性（需要）が認知され、供給が増えたと考える。

